

やんさノエ

会報

2009 No.12



発行 江差追分会

2009.11.1

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>

江差追分全国大会を支える民活

近年、江差追分全国大会は追分の関係者だけの大会だ、とか会場には追分会の会員と職員以外の町民の姿がほとんど見られな
い、或いは江差町民は、全国各地から集まっ
てくる人々を歓迎しているのだろうか、更
には開催町として宿泊施設をどのように考



えているのだろうか、などと言う話を耳に
することがある。
確かに言われる事は間違っていないし、
追分関係者はこれらの課題をどのように解
決していくかを真剣に考えていかなければ
ならないと思う。

全国大会を始めた頃、出場者一人ひとりの唄に一喜一憂して声援を送った町民の足が最近はずいぶん遠のいてしまったのか。「江差の観客は凄く、まるで客席が審査しているようだ。」さすが本場の追分は違う、と全国に感動を呼び起こしたのは追分を愛した町民だったのではないのか。

町民が遠のいたのは何とも淋しい。しかし、江差の町民が追分や全国大会に全く無関心という訳ではない。

町民参加の追分踊りパレードを立ち上げて三年になる。

会場で地元物産や食事を提供する売店、接遇のボランティアも続けられているし、宿泊施設を提供する企業もある。

目立たないが個人同志の交流も随所に見受けられる。

このように、追分を愛する町民が全国大会の場で全国から集まる会員と交流すれば、もっと素晴らしい大会になるのではないのか。

三年後には、半世紀、五十回の記念大会を迎える。近年の人口の減少や不況の中で宿泊施設等は簡単に設置されることは無理であろう。それこそ、個人住宅の空き部屋の開放、追分会会員による民泊、会社や団体の寮や宿泊施設の開放、或いは町民と大会参加者との交流の場の設定等が町民によって行われれば、五十回記念大会はもとより、江差追分がこれからも町の活力になって行くのは間違いないであろう。

ひとつの民謡で五十回を迎える大会は江差追分だけである。この素晴らしい財産がある本場で生活している町民は幸せだと思
うし、これを次世代に引継いで行くのも町
民の任務であり責任ではないだろうか。

掛け替えのない追分文化を次世代に引継ぐには町民の課題に対する取り組みは欠かせない。

(学芸部)

第四十七回江差追分全国大会

一般優勝 小樽の日和義貴さん
 熟年部門優勝 江差の小梅洋子さん
 少年部門優勝 大阪の植田玲奈さん

第四十七回江差追分全国大会は、九月十八日より三日間にわたり江差町文化会館で行われ、一般・熟年・少年大会それぞれの部門で日本一を競いあった。

今回の出場者は一般一八七名、熟年一六四名、少年五六名、総数四〇七名



で、出場者の高齢化により熟年部門が年々増加している。本大会より熟年出場年齢が六十六歳に繰上げられ、毎年順次繰上げ五年後には七十歳からに引上げられる。

今年も熟年大会決選枠も五名増の二十五名に増員された。

大会で最も注目を集める一般部門優勝は小樽の日和義貴さん(三二歳)が栄冠に輝く快挙をなした。熟年優勝は江差の小梅洋子さん(六七歳)、少年優勝は大阪の植田玲奈さん(一五歳)がそれぞれなした。

一般優勝の日和さんは昨年の準優勝から一気の勢いで優勝に漕ぎつけた。

熟年優勝の小梅さんは地元町支部で一般人賞実績のベテランで熟年で優勝を飾る。

少年部門で優勝の植田玲奈さんは道外という遠隔のハンデを克服して少年本州勢として初の快挙をなした。

各部門入賞者は別掲のとおり。

本大会の総評を佐藤雅昭審査室長(NHK函館放送部長)は「大会では

追分の真髓を歌いあげることが最も大事で唄とソイ掛け、尺八が一体であることが要求される」と講評した。

出場者が高齢化傾向の半面、一般部門入賞十位のうち、八人が三十代以下の若年層が占めている。若さの音量が優位になっているのかも知れない。

江差追分の奥深い魅力に惹かれ九州から数回江差を訪れているという七十代の男性は「最近の入賞者の唄には、波とか風のような土地の香りを感じさせるものが少なくなっているのでは」と話していた。追分は聞けば聞くほど心に響く唄で、つい江差に来てしまうと喋っていた。



ブラジル三世出場

江田グスターヴォ

審査員特別賞に感動



今大会ブラジル支部(石川論支部長)より出場は、日系三世江田グスターヴォ

(二三歳)。ペロオリゾンテ市出身、ブラジルでは英語塾教師、アニメ声優で働き、渡航。日本語、ポルトガル語、スペイン語など五ヶ国語を話す。ブラジルでは江差追分や日本民謡を修得のため自宅より五〇〇キロの距離にあるサンパウロ支部に四年通いつづけた。日本楽器尺八、三味線も習っているという。「全国大会出場が一番の夢で在日中に果せて感動しています」と舞台では朗々とした力強い歌いぶり、審査員特別賞を受賞拍手をあびた。

祖父は岡山県出身でルーツを探しているという。全国大会出場の縁で「一族にかかわりのある江田五月参議院議長に帰国前面会でできました」と喜びのメールがブラジルから届いた。

第四十七回全国大会

一般の部入賞

- 優勝 日和 義貴 (31) 札幌南
- 準優勝 福士 優子 (34) 千歳
- 三位 西川 俊昭 (59) 乙部陽翔会
- 四位 黒森このみ (20) 札幌南
- 五位 杉本 武志 (35) 東京菊水会
- 六位 大沢 理絵 (34) 静内
- 七位 新保真智子 (31) 幌別
- 八位 間島 正晴 (37) 札幌白石
- 九位 東 真喜子 (35) 乙部陽翔会
- 十位 佐竹 春敏 (56) 滝川

江差追分全国大会で優勝

「両親の支えがあったから優勝できた」。檜山管内江差町で20日開かれた第47回江差追分全国大会。優勝旗を手にする涙をこらえきれなかった。

大会では、父・陽章さん(65)は尺八、母・かつ子さん(60)は、歌に合いの手を入れる「そい掛け」を務め、3人一緒にステージに立った。陽章さんは道民謡連盟の尺八最高師範。かつ子さんも民謡の全国大会で優勝経験があり、親子3人で暮らす小樽市内では有名な



さん(65)は尺八、母・かつ子さん(60)は、歌に合いの手を入れる「そい掛け」を務め、3人一緒にステージに立った。陽章さんは道民謡連盟の尺八最高師範。かつ子さんも民謡の全国大会で優勝経験があり、親子3人で暮らす小樽市内では有名な

民謡一家だ。そんな両親の影響を受け、10歳で民謡を始めたが、一時遠ざかり、23歳の時、かつ子さんの勧めで再開。民謡の中でも難しいとされる江差追分日

2006年に「十勝馬唄」、「北海浜節」の各練習はいつも両親と一緒に。勤務する道路整備会社の仕事が忙しく、週2程度しかできなかったが、「10回分の練習を1回でやるくらい」の気持ちで集中して臨んだのがよかった」と振り返る。最近、子どもたちが耳にしてきた、かつ子さんの江差追分に似てきたと感じるようになったという。「日本一になり江差追分を歌う機会が増えるので、全国の人に魅力を伝えていきたい」。31歳。(照井善之介)

ひと 2009

二〇〇九年九月二日 北海道新聞

第十三回熟年全国大会入賞

優勝 小梅洋子さん(六七歳)

江差町声友会



小梅さんは全国大会一般から今まで二十回以上出場し、一般で四回入賞実績のある実力者。江差追分を歌

いはじめて三十五年、歌うことを楽しみにして熟年大会二回挑戦して見事栄冠を手にした。

- 準優勝 小野寺安喜 (68) 東京練馬
- 三位 榎本弥惣七 (74) 網走声友会
- 四位 畠山 桂星 (66) 安平清志会
- 五位 大柳 宣之 (68) 大阪金剛
- 六位 木田 弘 (66) 札幌東白石
- 七位 奈良たか子 (68) 帯広
- 八位 菅井 妙子 (73) 札幌ライラック会
- 九位 細木 利良 (74) 大平原
- 十位 本田 充枝 (70) 静内

第十三回少年全国大会入賞

優勝 植田玲奈さん(二五歳)

大阪八尾市大和菊華会支部



少年全国大会では本州勢として道外から初めての優勝を飾る。

- 準優勝 田村つくし (11) かもめ会
- 三位 田村ひより (8) かもめ会
- 四位 須藤 葉 (13) 菊水会

- 五位 大木 風香 (10) 札幌白石
- 六位 中島 弥生 (14) かもめ会
- 七位 福田 花梨 (11) 厚沢部美和
- 八位 田中 菜々 (9) 菊声会
- 九位 須藤 泰道 (11) 菊水会
- 十位 藤元 美沙 (12) 旭川中央

町民参加で大会を盛り上げる 追分踊りパレード

江差追分を応援する町おこしの会



「いにしえ街道」をパレードする会員 9月17日

江差追分の「母唄」 江差三下り(下)

江差追分会副会長
江差三下り会幹事長
馬川政紀

歌詞の変遷

江差三下りの歌詞は、昭和三二年に保存会が結成されるまでは、

一、碓氷峠の権現様は、わしがためには守り神

二、心細さよ身は浮舟の、だれも舵とる人もない。

三、文の上書き薄墨なれど、中に恋路(濃い字)が書いてある。

この一章の歌詞は、正に中仙道の碓氷峠を中心とした馬子唄に端を発していると思われる。

しかし、一章の歌詞だけは、江差にあった歌詞にすべきであるとの結論から、江差の繁栄をもたらした「ニシン：鯡」と深い関係にある鷗島の弁天社、現在は厳島神社に因んで「碓



氷峠の権現様は」を「江差港の弁天様は：以下同じ」に変えたのである。

踊りの変遷

江差三下りには、文化年間から踊りが振り付けられていたようである。

明治初期に江差に来演した東京春木座の「中村梅玉丞」によって歌舞伎調の優雅な踊りに手直しされ、当時の江差商人と芸妓を模した「道行姿」の踊りとなって料亭等で芸妓衆によって昭和時代まで踊り継がれてきた。

昭和二十年代後半になって江差町で日本舞踊の師匠をしていた若柳吉富三師(故人)によって若干の手直しの後に現在の踊りが完成され、今日に至っている。

踊りは現在、江差三下り会員中の数名の踊り手によって保存・伝承されている。

現状と活動

永い歩みの中から江差三下りは民謡界でも、ある程度認識されてきたことにより愛好者も増加し、江差に事務局を置く「江差三下り会」の会員は、全国に百三十名となっている。(二十一年三月末現在)

しかし、会員にはなっていないが、潜在的な三下りファンは相当数いるのではないだろうか。

三下り会は、毎年二月の第三日曜日に江差町で研修会と総会を開催しているが、僅か二時間程度の研修会とその後の総会・懇親会のために、冬の寒い時期にも係わらず、半数近い会員が全国各地から参加してくれている。

研修会や総会への参加者が多いこともあり、三下りの普及と技術の向上のため、翌日(月)に「江差三下り発表大会」と「格付審査会」を開催している。

発表大会や、格付審査を受ける会員も、大半が「江差追分会」の会員でもあることから、大会の入賞者もなじみの顔ぶれである。これまでの大会最優秀賞(優勝者)は、一回目が本田勝三氏(函館市)二回目が萩原克彦氏(江差町)三回目が奥泉勇篁氏(札幌市)四回目が小野寺安喜氏(東京)である。

大会出場者は、毎回二十名から二十五名ほどであり、格付審査の受験者も発表大会出場者と同程度であるが、会員の日頃の努力が顕著に表れ、格付の昇級率は良好である。

今後の課題

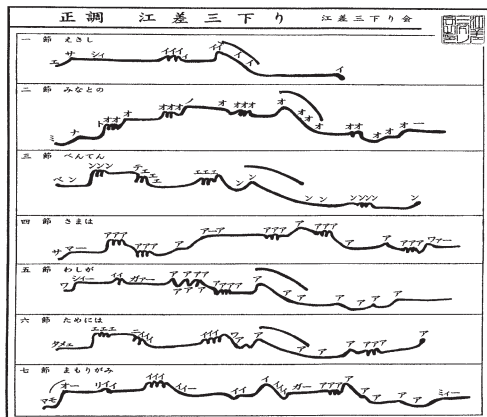
江差三下りは、踊りも含めて、北海道の「無形民俗文化財」に指定されており、会員数も百三十名とは言えないものの、ご他聞に漏れず高齢化が進んでおり、歌い手・踊り手双方共に指導者も含めた後継者不足は深刻である。

また、初心者等に指導するための基本譜も本年、若干の記号の整理とその呼称について整備したが、未だ不備な部分が多い。

しかし、あまり具体的なものにしてしまうと画一化された「江差三下り」になる恐れもあることから、当面は現在の基本譜で指導することにしている。

発表大会を開催して四年、来年二月には第五回目の発表大会の開催を予定している。

この発表大会は、全国大会開催の準備期間として開催してきたものであるが、開催期日や会場、参加者の状況等々早急に検討しなければならない時期に来ている。(おわり)



- もみ
- かぶせ落とし
- 下げ止め
- 流し止め
- 上げ止め

第四十七回江差追分全国大会・特別アトラクション 「歴世の奥義・江差うたの源流とその魅力」

学芸部門理事 高田 裕

連綿とつづく江差追分全国大会で歌い手の力量にかかわらず、たった二十六字のなかに、よくぞ言葉（ことば）をこめて歌えるものだと、毎回感心している。まるで魂のこもった神のお告げでもあり、ご神託である。

そもそも民謡の原点は「神明・和讃」で、梵唄（ぼんばい）ともいう。はよい話が、お坊さんが語るお経である。奈良・平安とつづき鎌倉時代では平家琵琶に影響をあたえ、室町時代には浄瑠璃や義太夫などの語り物が生まれ、江戸時代には



長唄・清元までもうまれた。そこには市井の風景やそこで暮らす人々の情念や感謝の気持ち、そして驚喜（きょうぎ）までうたっている。

では我々が愛する江差追分は、具体的にどうなのか。今回、「歴世の奥義・江差うたの源流とその魅力」と題して特別アトラクションを企画してみた。近くて遠い津軽と南部地方のさまざまな民謡（うた）を聞きくらべながら『民謡の遺伝子』みたいなものを考えてみよう、ということである。

プログラムは三部構成。

第一部は優美で落ちついた雰囲気の下三下り特集。今からおよそ二二〇年前、漁業と商業で栄えた江差町では、夜になると三下りの調子にのせて馬子唄（うまこ唄）が盛んにうたわれていた。へ江差港（みなと）の弁天さまは、わしが為には守り神。この「江差三下り」は、江差町民のあつい信仰心と郷土愛、そして夫婦・家族・人間愛をうたったもの。では、江戸時代の中頃、鯨ヶ沢の港から弘前城下まで荷物を運ぶ駄賃（だちん）つけの馬子たちが流して歩いたうたを、坊様や

芸人たちが三味線をつけた「津軽三下り」はどうなのか。そして、この津軽三下りが変化し、旧南部領のお座敷などで三味線と太鼓にあわせてうたう「南部三下り」に民謡（うた）の遺伝子（いでんこ）を楽しんでみた。

第二部は「江差追分」。信州中仙道で生まれた信濃追分が越後に伝わり、船頭や船子のうたう越後追分が北前船で江差に辿（たど）りついた。ニシン場の花街ですでに流行っていた江差三下りと謙良節、そして越後追分が融合して江差追分の原形ができたと言われている。この原形を作るにあたり一番熱心で活躍したのが、座頭・佐之市であった。

そのルーツのひとつ「津軽謙良節」は、三重県の伊勢松坂が越後新発田地方に伝わり、そこから北前船で運ばれたうたのひとつ。一説によると松崎謙良という男が奥州から蝦夷地へ流浪の旅をしなが

ら伝えたので謙良節と名付けられたという。さらに、津軽三大竹物（たけもの）のひとつ「津軽山唄」を聞いてみた。



第三部

は、九州熊本（あまくさうしゅう）深草（ふかぐさ）牛深（うしふか）地方に伝わる騒ぎ歌

「ハンヤ節」が北前船で運ばれて「おけさ

節」、「津軽あいや節」となり、さらに北上してニシン場全盛時代に「江差餅つき囃子」と発展した。これをメインに津軽あいや節と南部あいや節の三つを聞きくらべながら検証してみた。

この特別企画（アトラクション）を見聞した観客から「やはり、そうであったのか。良かったヨ」と賛辞（さんじ）をえたのも、始めと終りにしなやかでキレイのある津軽民謡（うた）手踊りで、一段と華をそえてくれた小学四年生の鈴木萌花（ももか）ちゃんの協力があつたからこそ思っている。

出演者を紹介しておこう。敬称略（けいしょうりゃく）（唄）佐藤信夫、手倉森勝利、房田勝芳、萩原克彦、間島秀格、鈴木タマリ、新保てい子、安澤望、卯子沢裕美（津三）佐藤俊彦（三）房田文江、岩館まつゑ（太）森田今日子（尺）山田正明、内村匡成（他）江差餅つき囃子保存会



小路豊太郎碑

建立二十周年記念法要献奏

尺八コンサートなど多彩に

追分尺八の先駆者として著名な鷗嶋軒小路豊太郎の顕彰碑が建立されてから二十周年を記念し、明暗尺八道場や追分尺八の関係者による追善供養献奏会が九月二十一日午前十時、鷗嶋の碑前で行われた。



虚笠山布袋軒関主梅檀玉堂師を導師による追善法要につき、明暗尺八札幌道場主井上肇心師の挨拶の後、参集者一行の追善献奏が行われた。

献奏を終えた明暗道場の虚無僧一行七人が鷗嶋から歴まち商店街を虚無僧姿で吹奏し、姥神社に献奏した。

午後には、町内姥神町の「壱番蔵」で追善献奏会記念コンサート「虚無僧と江差追分」(第二十六回みちくさコンサート)が行われた。蔵一杯に詰めかけた聴衆を前に井上肇心師の「越後三谷」(合奏)と虚無僧と江差追分に關する講話、前川論水師の「蓬菜」、神田可遊師の「奥州山谷」と、日本民謡協会初代会長浦本浙潮と民謡に関する講話、梅檀玉堂の「布袋軒鈴慕」など、数々の秘曲と興味深い話題が披露された。

最後に小路流追分尺八三代目の松本晃章師が挨拶に立たれ、流祖追悼の行事が盛会裡に無事終了したことを謝すると共に、近來、次第に曲節や奏法につき統制的な動きが強まる傾向がみられる追分尺八界の現状を憂慮されると発言をされたことが印象的であった。

(学芸部門理事 館 和夫)

佐之市の名前に新説

江差追分の祖師佐之市の名前について、このほど新説が現れた。

宮城教育大学名誉教授の田中農夫氏が、提唱されたもので、佐之市の名を東本願寺江差別院所蔵過去帖の元治元年四月の項にある「寿の市」に由来すると推測する点では従来の説と変りはないが、読み方については、「すのいち」ではなく「ひさのいち」と読むべきで、東北地方のなまりの特性から摩擦音で聞こえにくい「ひさのいち」の「ひ」の音が、消失すると共に、「さ」の音にアクセントが置かれて「佐之市」になったと考えられるという。

田中氏は、一見、追分とは無関係に見える障害者教育の専門家であるが、盲目の佐之市が、これほど後世に功績を残した点に着目して長い間取材を続け、今年の三月に出版した「ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援」(田中・木村共編・福村出版・定価二千八百円)という本に、長文の脚注のかたちで江差追分、当道座、音韻の転化などについて論及しておられるので興味のある方は、ぜひ御覧下さい。なお、江差追分会館内の追分文庫には同氏から寄贈された本が備えてあります。(学芸部門理事館 和夫)

地区・支部コーナー

ブラジル支部設立二十周年

記念大会盛大に終わる

一九八九年に海外支部の先駆けとして設立。この二十年間石川論支部長を先頭に、会員が丸となって江差追分の普及・伝承に貢献。記念行事は、八月二十三日にサンパウロ市宮城県人会館にて約三百人のお客様を向かえて盛大に行われた。また、この行事と合わせて行われた江差町での追分全国大会への出場権のかかったこの大会では、若手のエースとして江田グスターヴォさん(二十三歳)が見事に優勝。全国大会の舞台では、見事な追分を披露した。



地区・支部コーナー

江差追分の鑑賞と歴史的背景

例年のとおり、旭川忠和中学校で

三年生を対象に九月二十八日、音楽室にて三時間目、二十五名、四時間目、二十五名の合計五十名の生徒さんに

対して、江差追分の歴史と追分の唄の指導体験をさせました。また、尺八、三味線、太鼓等の説明をして、最後に追分踊りを添えて、私が江差追分を前唄から後唄まで一本通して披露しました。

また、送り囃子にトーラサンペ（まりの唄 作詞 佐々木洋子 別記）を生徒さんとも合唱しました。旭川には、近文アイヌ記念館があり、アイヌ民族との繋がりも深く、私も研究しているうちに、この詩を思いつきました。また、私の着ている民族衣装は、故杉村京子氏が、古代文様を復元し作成して、私に寄贈してくれたものです。その経過等を説明するとともに、校長先生、教頭先生には、授業を拜見して下さり感謝申し上げます。誠に有難うございました。また、たくさん感想文も寄せられ、感動しております。後半は一月を予定しておりますので、これからも頑張ります。

江差追分会旭川支部長 佐々木洋子

ます。

トーラサンペ（マリモの唄）

わたしやマリモのウンタラヤ 芽をふくパイカル（春） 森のトウ（湖）チカッポ（小鳥）の声に誘われて、マリモに唄う、レラシンネ「風のように」ピリカメノコ（美女 外見だけでなく内面的にも）を思う気持ち」

ここは最果て北のアトウイ（海）、舞い散るウパシ（雪）に囲まれて、エトピリカ（オホーツク海岸に住む嘴の赤い「幻の鳥」といわれる）の声も消えてゆく マリモは唄う レラコラチ（風のように）ピリカメノコを思う気持ち」

空を眺むる・・・チヌカラクル（北斗七星）我ら人間の見る神）

生徒たちの感想

三一 堀 朝香

生での演奏を聴くのは初めてでしたが、ちょうどこのあいだテレビで小さい子が追分を唄っているのを見たばかりだったので、小さい子よりか、やは

り、深みのある声で、お腹から出しているし息継ぎまでがとても長くてすごかったです。尺八や三味線を弾くのはとても難しそうでした。また機会があつたら、聴きたいです。

三一 佐々木 詢

江差追分の楽譜は、普通の楽器の楽譜と違って、唄い方を表していたのにびっくりした。尺八の吹き方を聴いて、演奏するのは難しいんだなと思った。いつもの音楽よりも楽しかった。



目指すは、アマチュア日本一

関西地区運営協議会

今年四月に高知新聞に掲載。本人は、今年の全国大会で憧れの初舞台を経験。感動する！

遠境近況

二十三歳のときに大阪で結婚。普通の主婦をしますが、五年前に地元の民謡教室に通いだしてから、民謡の魅力にはまりました。

もともと歌が好きでしたが、民謡は声の出し方、節回しなど簡単にはできないものであり、歌ったものが多く、詞はそれを見事に表現している。曲も音律も自分の中に迫ってくる感じがしました。

民謡の最高峰 究めたい

「ほれたからには力試しを」と思い、産経民謡大賞、山中節全国大会などいろいろな大会に挑戦しました。昨年九月に岡山県で開かれた下津井節全国大会では、舟唄の部で準優勝。「わずかなキヤリアで立派」と師匠に褒められ、とてもうれしかったですね。ただ昨年、「民謡の最高峰」といわれる「江差追分」の曲に出合ってからに感動したんです。目指すはアマチュア日本一ですが、江差追分を究めることが、もっと大きなテーマになりました。また六月の関西予選を突破して、全国大会に行くのが目標ですね。家でもけいこをしますが、一生懸命練習してこそ初めて結果が出ることを、子どもに肌で感じてもらっています。そのことも民謡の大きな成果です。

主婦 戸毛 由香子さん (47) =大阪市東成区在住=



とけ・ゆかこ 土佐郡本川村出身。桃谷高卒。昭和60年に結婚して現在に至る。

事務局からのお知らせ

一、江差追分全国大会表彰受賞者

この度、第四十七回江差追分全国大会において、次の方々及び支部が各賞を受賞されました。

【功勞表彰】

故根本 安雄（関東地区 東京葛飾支部）

永年、関東地区運営協議会の要職である事務局長及び江差追分全国大会の司会者として、江差追分の事業運営及び発展に多大な貢献。

故濱塚 良幸（江差地区 追分塾支部）

第二十回江差追分全国大会で優勝以来、自身の唄の研鑽に精進するとともに、尺八の指導者としても、後継者育成に努められ、江差追分の普及発展に多大な貢献。

山本ナツ子（道北地区 砂川支部）

第八回江差追分全国大会において女性初の日本一に輝いて以来、自身の唄の研鑽に精進するとともに、指導者及び理事として後継者育成に努められ、江差追分の普及発展に多大な貢献。

河村 洋章（札幌地区 札幌山鼻地区）

昭和五十二年に江差追分会に入会以来、尺八伴奏者及び指導者として江差追分の普及発展に多大な貢献。

【感謝状】

松田 茂（ブラジル支部）

ブラジル支部発足以来、日本の心の伝

承者として、永年にわたり江差追分の指導者及び尺八伴奏者として、江差追分の普及発展に貢献。

海藤 司（ブラジル支部）

ブラジルにおいて、永年にわたり指導者及び尺八伴奏者として、江差追分の普及発展に貢献。

安田祐規（ブラジル支部）

ブラジル支部発足以来、日本の心の伝承者として、永年にわたり修練に励まれ、江差追分の普及発展に貢献。

【支部奨励賞】

滝川支部（滝川市）

支部発足以来、毎年全国大会で上位入賞を果たすとともに、学校部門への追分導入という地域活動を通じて、江差追分の普及発展に大きく貢献。

室蘭白鳥会支部（室蘭市）

支部発足以来、五十余名の会員数を保持するとともに、会員一丸となつての各種地域活動を通じて、江差追分の普及発展に大きく貢献。

珠洲支部（石川県珠洲市）

支部発足以来、永年にわたり江差追分の支部として、優秀な人材育成をはじめ、支部活動を通じて、江差追分の普及伝承に貢献。

二、冬季師匠会研修会の開催

今年度も会員の唄及び伴奏の技術向上を図ることを目的に、第二回目の師匠会研修会を次のとおり開催します。

・日程 二月二十一日(日)
午前十時三十分～午後三時
※師匠会総会後に開催します
・会場 ホテルニューえさし

三、江差追分セミナーの開催

今年度も十一月と二月に次の日程で開催します。
十一月のセミナーは二回目を迎え、二月のセミナーは二十五期という節目を迎えます。

【十一月江差追分セミナー】

十一月 五日(木)～ 七日(土)
十一月十二日(木)～十四日(土)
十一月十九日(木)～二十日(土)

【二月江差追分セミナー】

二月 四日(木)～ 六日(土)
二月 十一日(木)～ 十三日(土)
二月 十八日(木)～ 二十日(土)
二月二十五日(木)～二十七日(土)
いづれも時間は九時～十七時まで

※受講料はお一人様三日間コース一万五千円となりますが、二週以上受講される方につきましては、二週目以降受講料は一万円と割り引きになります。

四、資格認定審査会の開催

今年度の資格認定審査会については、十二月に地区運営協議会を通じて周知しますので、申請は地区運営協議会を経由して三月一日までに申請下さい。
なお、日程等については次のとおりとなります。

・日程 三月二十一日(日) 午前九時～
・会場 江差追分会館
・認定区分 師匠・準師匠・講師・準講師

五、地方格付審査会

今年度は、旭川市で開催

今年の審査会を次のとおり開催いたしますので、たくさんの方々のお審お待ちしております。

記

- 一、とき 平成二十一年十二月六日(日) 午前九時より
- 二、ところ 旭川市神楽交流センター
(旭川市神楽三条六丁目一十二)
- 三、申し込み 追分会事務局若しくは、所属地区の運営協議会にお申し込み願います。

六、過去の全国大会の写真募集

江差追分会事務局では過去の全国大会の写真を集めています。
ご寄贈いただける方は事務局までご連絡下さい。

事務局より

各地区運営協議会・支部からのお便りをお待ちしております。

事務局長までお寄せ下さい。
全国的に新型インフルエンザの感染が拡大しております。どうぞ、うがい、手洗いの励行で予防に努めてください。

【編集】 岩淵啓介・松村 隆

【企画】 館 和夫・高田 裕

江差追分会事務局